

居場所

中本祐子

古びた青石の階段に
どんぐりがまばらに落ちて
歩いている今も
上からかさつと落ちる音
ころころ転がったどんぐりは
人に蹴られて
風に吹かれて
石と石との隙間に入り込み
いつしかその殻を割って
青石の威厳ある隙間に
薄緑の腹を出して伏している
春には若草色の芽が芽生え
この地に根をおろすのだろう
どんぐりは落ちた後
痛みと寒さを糧として
小さな土の隙間に
自分の居場所を見つけたのだ

(阿波瑞巖寺)

